

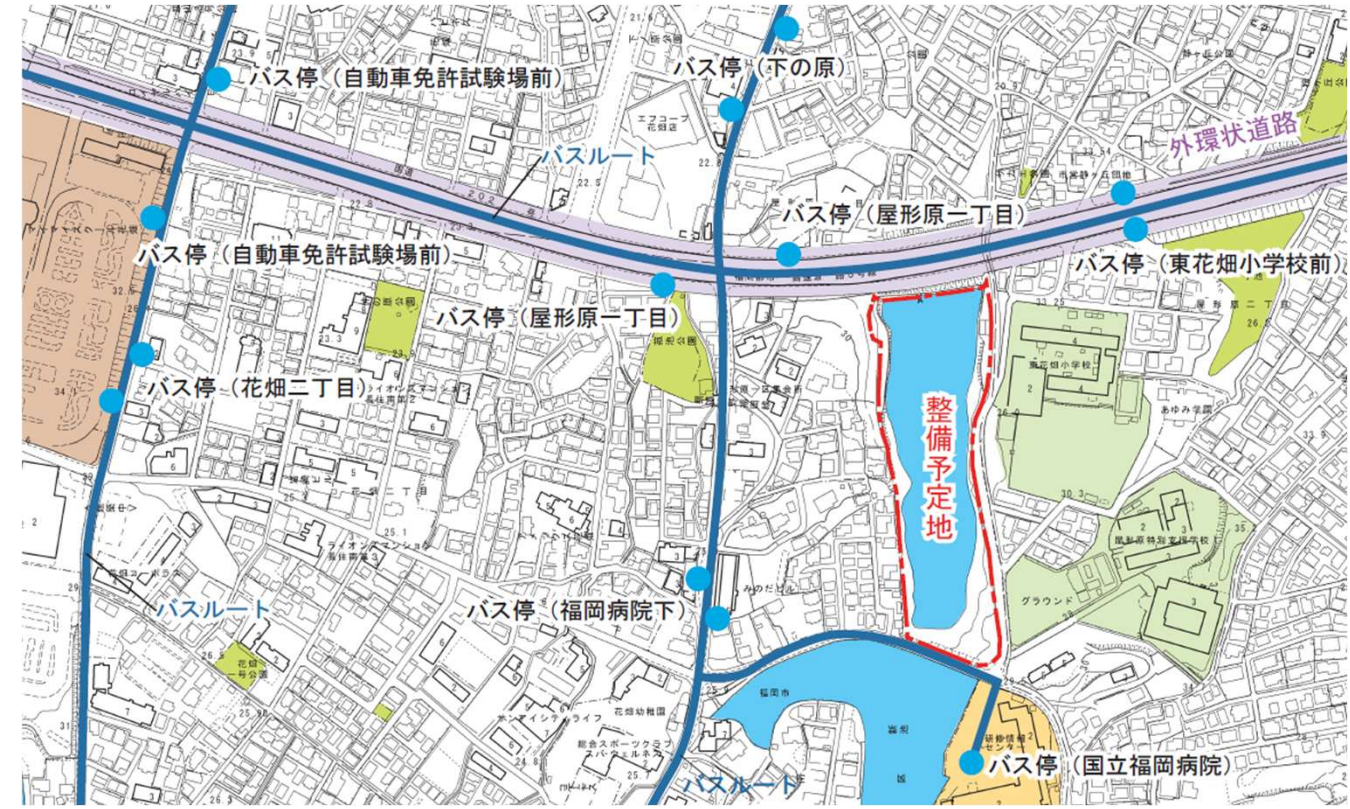
南地域交流センター（仮称）基本構想【概要版】

1 基本構想策定の目的

○南地域交流センター（仮称）基本構想は、新たに南区西南部地域に整備する地域交流センターについて、その必要性や整備予定地の概要、整備の基本的な考え方を示すものとして策定するもの。

2 整備予定地の概要

- 所在地 南区屋形原1丁目（若久池）
- 面積 約2.0ha
- 所有者 福岡市
- 概況 北側は南区を東西に貫く外環状道路に隣接
東側は屋形原1738号線、南側は屋形原1757号線に接道
南区西南部地域の概ね中央部に位置
周辺に東花畑小学校や屋形原特別支援学校、福岡病院が立地
- 用途地域等
 - ・第二種住居地域（建ぺい率60%、容積率200%）、第二種20M高度地区
 - ・第一種低層住居専用地域、戸建住環境形成地区（建ぺい率40%、容積率60%）
- 周辺図



3 基本的な考え方

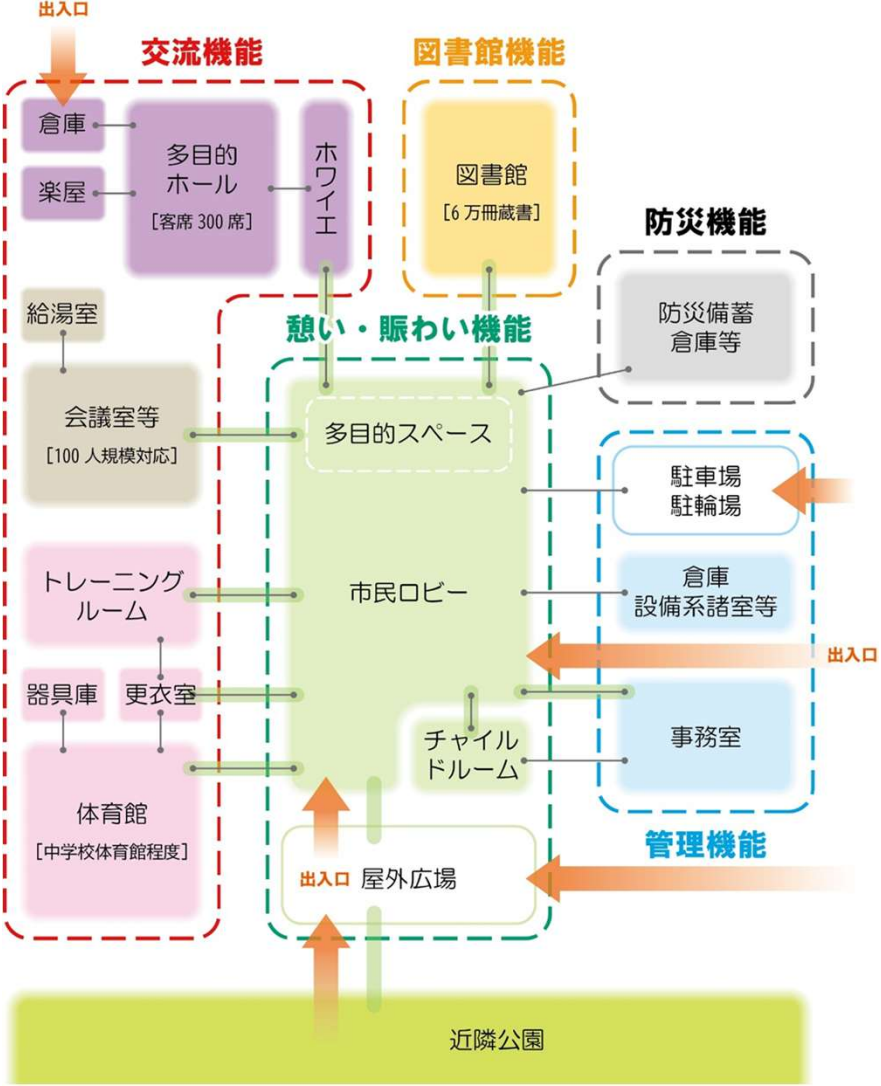
(1) 基本理念

- 文化やスポーツ等を楽しむ交流の場や自分らしい時間を過ごす憩いの場を提供し、人と人がつながり、共創による地域コミュニティの活性化や地域の魅力向上につながる施設を目指す。
- 地域に不足する近隣公園を一体的に整備することで、緑や花が持つ魅力により、憩いや安らぎが感じられる、様々な地域活動の拠点を目指す。

<地域からの主な意見>

- くつろぎ空間や自由に出入りできる交流の場にしてほしい。
- 子どもの居場所になってほしい。
- 各種団体活動の活性化や地域を越えての活動ができる施設にしてほしい。
- 避難所としての活用を見据えた施設にしてほしい。
- 行政手続きができるようにしてほしい。
- 良好な交通アクセスや駐車台数を確保してほしい。

<ゾーニング>



（２）機能と整備の視点

機 能	整備の視点	諸室等	基本的な考え方	利用イメージ
『交流機能』 文化やスポーツ、様々なイベントを通じて多世代交流や多文化共生を促進する	○多世代が交流する開かれた施設 ○様々な利用目的に対応する可変性のある施設	多目的ホール	○日頃の成果を発表する場にふさわしい空間 ○客席は300席程度を確保 ○楽屋などのバックヤード機能の充実	○民舞、ダンス、音楽、演劇などの発表会 ○地域向け講演会
		会議室等	○利用者の様々な「やりたい」を実現する空間 ○100人規模の広い会議室を分割利用 ○楽器、演劇、ダンス等の練習などにも対応できる適切な防音性能を確保	○会議、生涯学習等 ○健康体操や楽器練習 ○乳幼児健診会場
		体育館	○スポーツ活動や健康づくりなどを気軽に楽しみ交流できる空間 ○中学校体育館程度の広さを確保	○練習や交流試合 ○トレーニング
『図書館機能』 誰もが気軽に立ち寄り、学びを促進する	○本に楽しく触れることができる施設	図書館分館	○誰もがゆっくり読書を楽しめる空間 ○約6万冊程度の蔵書 ○一般書架の他、児童書架、閲覧コーナー、児童コーナーを設置	○読書、地域の歴史文化等の情報収集 ○読み聞かせの開催
『憩い・賑わい機能』 憩いの場であるとともに、人と人、各空間とをつなぎ賑わいを創出する	○公園、屋外広場と一体になった緑や花に彩られた施設 ○あらゆる世代の方が自分らしい時間を過ごせる施設 ○多様な利用者をつなぎ新たな賑わいを生む施設	市民ロビー	○開放的なエントランス空間 ○誰もが気軽にイベント参加できる賑わい空間 ○桧原桜エピソードなどの魅力発信、展示スペース	○待合せや休憩 ○ロビーコンサート ○アート鑑賞
		多目的スペース	○子どもから高齢者まで自分らしい時間を過ごすことができる居心地のよい空間 ○学習スペース、趣味・娯楽を楽しむフリースペース	○読書や学習 ○卓上ゲーム、囲碁・将棋
		チャイルドルーム	○子どもが自由に遊び、保護者同士の交流を生む開放的な空間	○乳幼児の遊び場 ○子ども向けイベント
		屋外広場	○市民ロビーや公園と一体となった憩い・イベント空間	○マルシェ
『管理機能』	○施設スタッフが施設全体を管理しやすく効率的に運営できる施設	事務室	○案内窓口や受付カウンター ○執務空間のほか、職員の更衣・休憩スペース	○利用者案内 ○施設の維持管理
		共用部	○認知症の人にもやさしいデザイン ○あらゆる方々に配慮したトイレ ○相当台数を確保した駐車場、駐輪場	—
『防災機能』	○災害時にも安心して過ごせる施設	防災備蓄倉庫等	○食料や備品等を収納する防災備蓄倉庫 ○避難時にも温かい食事が提供できる簡易キッチン、生活用水確保のための貯水槽、マンホールトイレ等	○災害時の避難所

(3) 施設全体の整備の視点

- ユニバーサルデザインの理念に基づくみんなにやさしい施設
- 快適なインターネット環境など利用者のニーズに対応した施設
- 花や緑があふれ、住民が身近に自然の潤いと安らぎを感じられる魅力的な施設
- ZEB化による省エネ性能の確保や木材利用など、環境負荷低減に配慮した施設
- 災害に対して十分な安全性を備え、地域の避難所としての役割を果たす施設

(4) 運営の視点

- 時代のニーズに柔軟に対応し、民間事業者のノウハウによる魅力向上や効率的な管理運営
- 地域、大学、NPOなど、様々な主体の協力による多彩な事業の実施
- 他施設で実施している高齢者や子ども向けの事業等を本施設でも実施するなど、新たな出会いや賑わいの創出

4 今後の検討事項

- 今後、基本計画策定に向け、次の事項を検討する。

(1) 施設配置や各諸室等の具体化

- 基本的な考え方をもとに、施設配置、各諸室の規模や設備の性能、駐車台数など

(2) 利便施設の導入など

- 飲食や物販等の利便施設導入の可能性
- 情報技術の進展状況等を注視した、地域特性に応じたサービス提供に向けた取り組み

(3) 公園、治水施設

- 地域交流センター、近隣公園、治水施設が一体となった魅力的なエリアの創出

(4) 管理運営

- 地域交流センターの役割を効果的に発揮できる管理運営方式・内容

(5) 最適事業手法

- PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ）の可能性、最適な事業手法

(6) 交通アクセス

- 地域住民が気軽に利用できる施設とするための交通アクセスの確保